

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健 単位数：1 単位
対象学年組：第1学年 A組～B組
使用教科書：（現代高等保健体育（大修館書店））

- 教科 保健体育 の目標：
- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	現代社会と健康1 【知識及び技能】 ・健康の考え方、生活習慣病などの予防と回復、喫煙、飲酒について理解することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・健康の考え方、生活習慣病などの予防と回復、喫煙、飲酒について自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・健康の考え方、生活習慣病などの予防と回復、喫煙、飲酒について、生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとする態度を養う。	・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復 ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・ICT機器活用	【知識・技能】 ・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解している。 ・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。 ・喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・健康の考え方、生活習慣病などの予防と回復、喫煙、飲酒について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・健康の考え方、生活習慣病などの予防と回復、喫煙、飲酒についての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	11
	定期考査 答案返却			○	○		2

2 学 期	現代社会と健康 2	・ 薬物乱用と健康 ・ 精神疾患の特徴 ・ 精神疾患の予防 ・ 精神疾患からの回復 ・ 現代の感染症 ・ 感染症の予防 ・ 性感染症・エイズとその予防 ・ 健康に関する意思決定・行動選択 ・ 健康に関する環境づくり ・ ICT機器活用	【知識・技能】 ・ 薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。その対策には、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解している。 ・ 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。 ・ 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。 ・ 健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・ 薬物乱用と健康、精神疾患の予防と回復、現代の感染症とその予防、健康の考え方について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 薬物乱用と健康、精神疾患の予防と回復、現代の感染症とその予防、健康の考え方についての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	定期考査 答案返却			○	○		2
	3 学 期	安全な社会生活	・ 事故の現状と発生要因 ・ 安全な社会の形成 ・ 交通における安全 ・ 応急手当の意義とその基本 ・ 日常的な応急手当 ・ 心肺蘇生法 ・ ICT機器活用	【知識・技能】 ・ 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることについて理解している。 ・ 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・ 安全な社会づくり、応急手当について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 安全な社会づくり、応急手当についての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○
定期考査 答案返却				○	○		2
							合計
						35	